

リン資源リサイクル推進協議会 平成 21 年度事業計画

リンは、植物や動物の生体を構成する主要な元素であるとともに、生命活動の維持に必要なエネルギーの獲得に関する重要な機能を担っているなど、欠くことのできない必須元素であり、化学肥料、工業製品、食品添加物等に、大量にかつ幅広く利用されている。

一方、原料となるリン鉱石は限られた国に偏在しており、このままリンの需要量が増加傾向で推移すれば、今世紀の後半には経済的に採掘可能なリン鉱石が枯渇するというようなシナリオも発表されている。また、近年の世界的な食料需要の増加やバイオ燃料生産等によるリン酸質肥料の需要増大を一因とするリン鉱石価格の急騰等、国内で消費するリンの全量を海外からの輸入に頼っているわが国においては、資源の安定供給面からも不安材料となっている。

このような状況に対処するため、わが国は国内で使用したリンの回収・再利用や、未利用リン資源の利用技術を開発する必要性に迫られている。

リン資源リサイクル推進協議会は、このような背景のもと、都市下水、含リン廃棄物、製鋼スラグ等の未利用リン資源からのリン回収技術や農業及び工業分野における省リン技術の開発促進、工業用リン酸や黄リン製造技術の革新等の技術の検討を行い、リン資源の回収とリサイクルに関する事業化の促進を行うとともに、リンの回収と再利用を円滑に進めるための事業者間連携や再生リンの利用を促進するための施策の提言等について、産学官の幅広い関係者が一体となって、行政の縦割りや民間企業間の壁を越えたオールジャパンのレベルで戦略的かつ総合的な検討を行い、もってリン資源に関する持続可能な循環型社会の構築と地球環境保全に寄与することを目的として、平成 20 年 12 月 18 日に設立した。

平成 20 年度においては、初年度として協議会を設立するとともに、関係機関との情報交換や連携を図りながら、関係事業者のマッチングや回収から利用までのリン資源リサイクルの実証等に向けた、協議会における検討テーマを主とした検討を行った。具体的には、設立総会及び記念講演会の開催、NEDO 調査事業や関係機関との連携、ホームページの開設とメールニュースの配信による情報の共有、会員等への支援業務等の事業活動を積極的に展開したところである。

平成 21 年度においては、引き続き関係事業者間のマッチングや回収から利用までのリン資源リサイクルの実証等に向けた取り組みを推進するため、回収技術、利用技術双方の立場からの情報提供と意見交換を行うシンポジウムの開催や委員会の設置を行う。

具体的な事業としては、「技術調査事業」、「普及啓発事業」、「業務支援事業」の各事業を推進し、委員会としては、協議会全体の活動計画および内外に対する提言等を検討する「企画委員会」、リン資源リサイクルに関する技術情報の網羅的な整理・取りまとめを行う「技術評価委員会」、回収リンの品質基準やリン資源リサイクルの指針を検討し回収リン資源の利用推進を行う「利用推進委員会」を順次設置するものとする。また、業務支援事業については、会員等がリン資源リサイクル事業を推進する際の支援に関する検討を行うものとする。更に、関係省庁、関係機関、関係事業者等との連携を積極的に図り、種々の情報や提言等についてホームページやメール等による発信を行うとともに、会員等のリン資源リサイクルへの取り組みに対して積極的な支援を行う。

2. 会務の運営

本協議会を運営するために総会及び幹事会を開催するとともに、平成 21 年度は、協議会全体の活動計画及び内外に対する提言等を検討する「企画委員会」を設置する。

(1) 総会 (1 回開催)

1) 第 2 回総会

開催日：平成 21 年 7 月 30 日 (木) (第 1 回シンポジウムと合わせて開催)

場 所：東京ビッグサイト会議棟 (東京都江東区)

出席者：関係省庁来賓、会員、取材

内 容：平成 20 年度事業報告及び決算、平成 21 年度事業計画及び予算、規約の変更
その他

(2) 幹事会 (4 回開催)

1) 第 2 回幹事会

開催日：平成 21 年 5 月 22 日 (金)

場 所：日本肥料アンモニア協会 会議室 (東京都中央区)

出席者：役員、事務局、オブザーバー (関係省庁)

内 容：平成 20 年度事業報告及び決算、平成 21 年度事業計画及び予算、規約の変更
旅費規程、会員支援業務について、その他

2) 第 3 回幹事会

開催日：平成 21 年 8 月下旬

場 所：日本肥料アンモニア協会 会議室 (東京都中央区)

出席者：役員、事務局、オブザーバー (関係省庁)

内 容：委員会の設置について、第 2 回シンポジウムについて、その他

3) 第 4 回幹事会

開催日：平成 21 年 11 月上旬 (第 2 回シンポジウムと合わせて開催)

場 所：日本肥料アンモニア協会 会議室 (東京都中央区)

出席者：役員、事務局、オブザーバー (関係省庁)

内 容：第 2 回シンポジウムについて、その他

4) 第 5 回幹事会

開催日：平成 22 年 2 月上旬

場 所：日本肥料アンモニア協会 会議室 (東京都中央区)

出席者：役員、事務局、オブザーバー (関係省庁)

内 容：平成 22 年度事業計画及び予算について、その他

(3) 企画委員会 (4 回程度開催)

開催日：幹事会前に開催

場 所：日本肥料アンモニア協会 (東京都中央区)

出席者：委員、役員、事務局

内 容：協議会の活動計画について、内外に対する提言について、その他

3. 事業活動

(1) 技術調査事業

本事業は、リン資源リサイクルに関する技術や関係機関の活動状況等の情報収集及び関係機関等との連携等により調査等を行うものであり、平成 21 年度は以下の事業に取り組む。

1) 技術評価委員会 (3 回程度開催)

リン資源リサイクルに関する技術情報(回収技術、利用技術等の方式、コスト(イニシャル、ランニング)、製品形状・性状、製品(肥料等)としての利用価値等)について、網羅的な整理・取りまとめを行う「技術評価委員会」を設置する。

2) 利用推進委員会 (3 回程度開催)

リン資源の回収側と利用側のマッチングのための現状の課題の把握、回収リン資源の品質基準及びリン資源リサイクルの指針等の検討、回収リン資源の利用推進のためのリン資源リサイクル(回収リン資源、回収技術、利用技術、回収と利用の連携等)の推進方策等を検討する「利用推進委員会」を設置する。

3) 水の安全保障戦略機構との連携

チームとして参画している水の安全保障戦略機構の委員会等(執行審議会、基本戦略委員会、技術普及委員会、分野連携委員会等)に参加し情報収集を行うとともに、必要に応じて協議会の活動状況の発信や提言等を行う。

4) その他関係機関等との連携

リン資源リサイクルに関する関係省庁の施策や関係機関の活動との連携を積極的に行い、情報の共有化や活動の効率化を図る。

(2) 普及啓発事業

本事業は、リン資源リサイクル推進のための情報提供や情報交換等の普及啓発活動を行うものであり、平成 21 年度は以下の事業に取り組む。

1) 第 1 回 リン資源リサイクルシンポジウム

開催日：平成 21 年 7 月 30 日(木)

場 所：東京ビッグサイト会議棟(東京都江東区)

出席者：関係省庁来賓、会員、一般、取材

内 容：リン資源回収技術(MAP 法、HAP 法、焼却灰溶出法、還元溶融法、吸着法、ヒートフォス法等)に関するメーカーや自治体等からの発表、報告と意見交換

2) 第 2 回 リン資源リサイクルシンポジウム

開催日：平成 21 年 11 月

場 所：東京都内

出席者：関係省庁来賓、会員、一般、取材

内 容：回収リン利用技術(肥料用、工業用、等)に関するメーカーや自治体等からの発表、報告と意見交換

3) 第1回 リン資源リサイクル事例見学会

開催日：平成21年11月（第2回シンポジウムに合わせて開催）

場 所：リン資源リサイクル取組事例実施箇所

出席者：関係省庁来賓、会員、一般、取材

内 容：下水処理施設におけるリン回収事例、回収リン利用事例、等

4) 協議会メールニュースの配信

本協議会活動、リン資源リサイクルに係る関係省庁の施策情報、関係機関の活動等について、電子メールによる情報提供を行う。

5) ホームページの運営

協議会事務局である（社）日本有機資源協会ホームページ内の協議会専用ページにおいて、入会案内、協議会案内、会員名簿、行事・イベント等の、本協議会活動の広報を主体としたホームページの運営を行うとともに、会員等からの情報提供や意見聴取ができる方式への更新を検討する。

6) その他

報道関係者、一般（協議会概要、入会手続き等）等からの問い合わせへの対応を実施する。

(4) 業務支援事業

本事業は、リン資源リサイクルに関する事業や研究等に関連する会員等からの要請、要望あるいは問合せ等を受けて、その業務を合理的かつ円滑に執行するための支援を行うものであり、平成21年度は、以下の事業に取り組む。

1) リン資源リサイクルに関する支援事業

平成21年度は、平成20年度より、会員からの要請を受けて支援を行っている「ひろしま環境ビジネス研究会」等に対する協力について、引き続き情報及び資料の提供、面談指導、役職員の派遣等を実施する他、会員等がリン資源リサイクル事業や研究等を推進する際の様々な課題について、要請に応じて随時検討や協力を行う。

2) その他

会員等からの問い合わせへの対応を実施する。